

# 安藤百福と千里山

編集 部

NHK朝の連続テレビ小説『まんぷく』は、平成30年10月から始まり、高視聴率を維持し、翌年の3月に終了しました。

この番組は言うまでもなく、日清食品生みの親と言うより、日清チキンラーメンを創った安藤百福氏の二代記で、ご覧になった方も多いと思います。

この百福氏の波乱万丈の人生の一時期を千里山で過ごしたことは、会誌18号「筒井之隆氏の紹介(千二小27回生)」で既に書きました。

筒井之隆氏は、作家筒井康隆氏(長男)の末弟で、他に次弟(正隆氏 千二小22回生)、次々弟(俊隆氏 23回生)がおられました。

之隆氏は大学卒業後、読売新聞に入社。百福氏を取材しているうちに、百福氏に可愛がられ、日清食品に転職。今では横浜にあるカップヌードル・ミュージアム館長。百福氏を一番よく知る男として、NHK百福氏紹介の特別番組にも出演されました。

1910年(明治43年)3月5日 当時、日本の植民地であった台湾屏東郡で生まれる。幼少時に両親を亡くす。

1924年(大正13年)高等小学校卒業。祖父が経営する織物業を手伝う。(14歳)

その後、図書館の司書になるが、静かな生活は性に合わず、2年で家業に戻る。

1932年(昭和7年)台北市で『東洋莫大小(メリヤス)』を創業。メリヤス製品を日本から輸入し、台湾で売る。(22歳)

1933年(昭和8年)大阪市の唐物町に『日東商会』設立。(23歳)

貿易業務本格化。商品は台湾で飛ぶように売れ若くして材を築く。

1934年(昭和9年)社長の傍ら夜間に学び、立命館大学専門部経済科終了。(24歳)

1941年(昭和16年)12月8日 台湾出張中に太平洋戦争勃発。メリヤス貿易は断念。(31歳)

1942年(昭和17年)32歳(35歳)戦時下でも事業意欲衰えず、幻灯機の製造、軍用機の製品製造、炭焼き、バラック住宅の製造など次々に手掛ける。その一つに川にし航空機の下請で軍用機用発動機(エンジン)の部品などを製造する会社を知人と

会誌18号に載せた百福氏の千里山関連の記事をここに転載します。

三軒隣に若かりしころの藤田田が住んでいた。藤田がふらつと安藤の自宅を訪ねたことがある。当時、大阪では、安藤は資産家として名が通っていた。若い藤田が先輩企業家である安藤に経営相談にでも来たのだからか。話した内容は記憶にない。それから25年以上たつて、1971年(昭和46年)藤田は日本マグドナルドを創業し、銀座三越に一号店を開く。同じ年、安藤はカップヌードルを開発し、銀座歩行者天国だった三越前で試食販売をする。奇しくも、戦後日本を代表する二つのファストフードが銀座で出会い、スタートした。不思議な運命の糸を感じさせる逸話である。

筒井氏が纏慕した『転んでもただでは起きるな!』より

NHKの朝ドラはかなり忠実に履歴を描いていますが、勿論、脚色もあれば、描かれなかった部分もあります。ここで彼の経歴のうち、TVと異なるところ、描かれなかったところを主に披露してみたいと思います。特に、彼が台湾出身者であり、かなり若いうちからやり手で、戦前・戦後の日本の政財界に知り合いが多かったことが特徴です。

2人で共同経営。軍需工場のため、資材は国からの支給。この時、軍の資材横流しの濡れ衣で憲兵の取り調べ、拷問を受ける。死と直面した45日間であった。結局は昔からの知り合いで元陸軍井上中將に窮状を伝え、その働き掛けで釈放。共同経営者とその親戚の憲兵の陰謀が露見。これはTVの通り。その後、大阪市北区の中央病院に60日間入院。腹部の痛手は持病になって、後に2回も腸閉塞で開腹手術を余儀なくされた。最初の入退院後、千里山の自宅に帰った。その頃の様子は、冒頭の話しか残っていない。

1944年(昭和19年)平安神宮で仁子(まさこ)と結婚。(34歳) 新婚時代を千里山で過ごしたかどうかは? 大阪への空襲が激しくなり、千里山より兵庫県へ疎開。千里山は空襲を受けたことはないと思うが、当時は誰もそんなことは解らない。千里山でも庭に防空壕を掘り、防火用水水槽が何軒かおきに置かれていた。

彼のモノ怖じしない性格にもよるが、本人の事業欲・能力に負う所が大きかったのだろう。安藤は若い頃、総理大臣の田中義一の自宅を訪ねたことがある。さすがに一言も口をきけなかったが、まだ学生だった子息の田中龍夫と知り合い、終生の

仲となる。龍夫は貴族院議員―山口県知事―衆議院議員―総理府庶務長官―通産大臣―文部大臣などを歴任。彼のお陰で、佐藤栄作―福田赳夫らの厚誼を得る。

こうした彼の人脈の中に日立製作所の母体となる日立鉱山をはじめとする久原財閥を築いた久原房乃助にも随分可愛がられた。この久原から終戦直後、「こう言う混乱期に不動産を買っておくものだからありったけの金をはたいて土地にしてしまいなさい」と勧められた。戦災によって安藤が取り組んだ事業は、全て灰燼に。でも幸いに過去の事業による貯えがあった。戦後の安藤の事業家としての出発点は、土地を買うことから始まった。

心齋橋で、こう北側の3軒の建物、梅田新道付近、大阪駅前ビル・・・のちにある事件で手放すことになるが。

1946年(昭和21年)疎開先から泉大津へ。TVで存知の鉄板を使つての製塩を始める。但し、実際はTVよりも数段規模が大きい。

大阪鉄道局管理地 敷地20万平方メートル  
職にありつけない若者(復員軍人、引揚者)、疎開先からの帰省者。総勢百数十人。  
漁船2艘買い、沖合でイワシも獲つた。

1947年名古屋に「中華交通技術専門学校」を開く。製塩事業同様、仕事のない若者を集め、奨学金を与え、技術を身に付けさせた。

「これまで日本は中国に迷惑をかけた。中国は広から民生の安定のためには、鉄道、自動車などの交通整備が必要。将来、技術協力できる人材を養成しては」との佐藤栄作の薦めであった。

1948年クリスマス夜のGHQ(連合国軍総司令部)の大阪軍政部長の転勤に伴う送別会終了後、そのGHQに脱税の容疑で逮捕される。TVの通りの展開。大阪の軍政部で裁判が開かれ、たった1週間で判決。「4年間の重労働」。

泉大津で若者たちに渡していた小遣いが給与と見做され、源泉徴収して納めるべき税金を納めていない。との理由。

検挙に乗り出してきたのが税務署ではなく、GHQ。彼らは国の深刻な歳入不足を解消するために徴税を強める必要があると日本の税務当局に督励どうやら見せしめに使われたようだ。

大阪の財務局から財産全てが差し押さえられ、泉大津の家も工場も、兵庫県の炭焼きをした山林、安藤名義の不動産は全て没収された。そして身柄は東京の巣鴨プリズム(東京拘留所。今ならさし

ずめ小菅拘留所。ここには戦争犯罪の容疑者や、パージで逮捕された政治家、言論関係者、財界人らが収監されていた。面識のあった岸信介とも偶然一緒。食事は米兵と一緒になので一般国民よりも恵まれていた。重労働などなく、麻雀もここで覚えたと言ふ。納得がいけない安藤は税務当局を相手取り、処分の取り消しを求めて提訴。京都大学法学部長を勤めた黒田覚博士ら6人の弁護士を組織。

1950年(昭和25年)12月 裁判を取下げ、即刻無罪放免。弁護士団は「最後まで戦えば絶対に勝てる」と励ましたとあるのが、TVと逆。(40歳)

1951年(昭和26年)大阪で新しく設立された信用組合理事長に三顧の礼で迎えられた。(41歳)

1957年(昭和32年)信用組合倒産。財産没収。無一文に。池田の借家の家財道具にも赤紙が貼られたのはTV通りとしても、独力で仕事を進める現場主義の安藤に金融機関は肌が合わなかったのだ。いよいよラーメン作りに専念。睡眠時間は平均4時間。この当りはTVが詳しい。(47歳)

1958年(昭和33年)3月『チキンラーメン』完成。最初の内の紆余曲折はTV通り。でも8月ころには三菱商事が私どもに売らせて欲しいと。続いて伊藤忠商事も。

「ラーメンからミサイルまで」というキャッチフレーズに対し、安藤は「ミサイルからラーメンまで」にして欲しかったと漏らした。この歳の12月、中内功が神戸三宮に『主婦の店ダイエー』の前身となるチェーン店をオープン。このダイエーが客寄せに使つたのがチキンラーメンと卵。この頃からはTVドラマもさることながら、この文を読んで下さっている皆さんの記憶もかなり鮮明に。

さらに拍車をかけたのが、翌1959年(昭和34年)、当時皇太子さまのご成婚に伴って多くの家庭に普及したTV。そしてTV・CMの時代に。「イガグリくん」「ビーバーちゃん」「地上最大のクイズ」「ヤングOH!OH!」など、明るく健康的な人気番組を提供。日清食品とチキンラーメンの名は、あつという間に全国に。(49歳)

1971年(昭和46年)その前年に味の素、三菱商事と3者でアメリカ視察及び現地生産販売。米国日清をスタート。片手で持って歩きながら食べるカップヌードルのイメージを抱く。

最初の苦戦はTV通り。その頃、冒頭の銀座歩行者天国等も展開。お湯の出る自動販売機を設置。コココーラに次いで多い2万台の自販機、及びTV・CMの力で徐々に浸透。(61歳)

1972年(昭和47年)2月28日 日本全国を揺るがす大事件に日本国民の8割が朝からTVに釘付け。連続10時間20分にわたって現場中継。

連合赤軍によるあさま山荘事件である。雪の中で包囲する機動隊員が湯気の上がるカップヌードルを食べている。それも繰り返し繰り返し、大写しで。最初、近所の農家からおにぎりの炊き出しがあった。しかし氷点下の寒さでカチカチに凍ってしまった。暖かいカップヌードルは空腹と寒さに震える隊員たちにはなによりの御馳走。

TVの前の人は叫んだ。「あの食べ物は何だ!」そう言えばTVの前の人たちも、朝食以降、何も食べていなかったのだ。放送はまだ続きそうである。「そう言えば、我が家にも買っておいしたカップヌードルがあるはずだ。夕食はあれでいい」と。

(62歳)

NHK朝の連続TV小説はカップラーメン誕生の頃でお仕舞で、またその後も後の日清食品の躍進ぶりは皆さんがよくご存知の通り。主なものを少し紹介します。

2001年(平成13年)宇宙食ラーメン開発 91歳になっても新製品に挑戦意欲を燃やし、NASDA

宇宙ステーションの野口と安藤は交信。

「宇宙で食べたラーメンはいかがでしたか」の問いに「地上で食べる味が再現されていて、大変美味しかったです」の返事。彼が食べたスペースラムは『とんこつ味』でした。

2007年(平成19年)1月2日 新春懇親ゴルフコンペに参加。109のスコアで回る。(96歳)

1月4日 大阪本社 初出式 30分立ったまま

挨拶・訓示。

1月5日 急性心筋梗塞で市立池田病院へ。

96歳と10か月の生涯を閉じる。

平成20年4月9日 元内閣総理大臣 中曽根康弘より

碑文が送られた。

正四位勲二等旭日重光章の榮に浴す。

千里山に住まわれていたころに結婚。奥様仁子さんの功績こそ大。長男 宏基氏が後を継いだのは1985年百福75歳の時で、その後常に親子喧嘩が絶えず、その間に入り修めたのが、仁子様。「何事があっても鯨のように飲み込みなさい。まず『解りました』と言ってから反論しなさい」と。この会長―社長の親子喧嘩を20年以上見

(宇宙開発事業団・現JAXA宇宙航空研究開発機構)にこの話を持ち込む。日本人宇宙飛行士は宇宙でラーメンを食べたいと強く要望。そこで共同研究に取り込むことに。2003年に予定されていた野口聡一郎宇宙飛行士のフライトに向けて開発が始まった。

船内は気圧が低いこと、安全のために給湯温度は75度に設定されているので、その温度で戻る麺の開発、無重力なので麺やスープが空中に飛散しない工夫、無重力の宇宙空間では血液が頭に上り、絶えず鼻が詰まったような状態になるので、地上に比べて味覚や嗅覚が鈍るので、スープはやや濃厚でスパイシーな味に調整。2002年8月、野口氏自身が試食。12月にはNASAA(アメリカ航空宇宙局)のフード・ラボにも送られ微生物検査にも合格。

しかし年が明け、コロナ肺炎号が大気圏に突入する際、空中分解し7名の宇宙飛行士が犠牲に。このため2005年7月まで延期。野口の乗ったデイスカバリー号は打ち上げ成功。フライト中に首相官邸でこのラーメン(スペースラムと名付けられた)の試食会が開かれ、小泉純一郎首相以下、感激気味に試食が行われた。

てきたのが、最初に紹介した筒井之隆氏です。

**安藤百福かく語りき(彼の示唆に富んだ人生訓)**

- \* 人生に遅すぎるということはない
- \* 転んでもただでは起きるな。そこら辺の土でも掴んでこい \* 細心大胆であれ
- \* 事業を始めるときは成功を語るな。失敗から考える
- \* 発明したと思っても、世界では同じことを考えている人が3人はいる \* 保身術が身を止ぼす
- \* 明日になれば、今日の非常識は常識になっている
- \* 知識より知恵を出せ
- \* 時代の変化に対応するのではなく、変化を造り出せ
- \* 在庫には価値がないと思え
- \* 良い評判を広げるのは容易ではないが、悪い評判はあつという間に広がる
- \* 問題ないと考えること自体問題である
- \* 良い商品と売れる商品とは違う
- \* 事業はすべて進むより退く方が難しい
- \* 皆でやろう ということは誰もやらない
- \* 全ての人が良いと言っ意見は信用できない
- \* 人間には2つの心がある。1つは「いいことをやりたい」もう1つは「やりたいことをやりたい」 完